

# 平成 2 1 年度新規事業評価調書

## 【漁港漁村事業】

農林水産局漁港課

## 事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部 農林水産部 漁 港 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 久保田 茂 〔 課長補佐兼計画係長 横山 悟 〕	内線	4 1 7 2 ( 4 1 7 7 )
------	----------------------	---------------------	-----------------------------------	----	------------------------

事業種目	漁港漁村整備	事業名	事業区間	総事業費	3.0億円
		漁港漁場機能高度化事業	家島漁港	内用地補償費	0億円
所在地		事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度	
姫路市家島町宮		H 2 1	H 2 1	H 2 3	
事業目的		事業内容			
<p>島民にとって本土への唯一の定期航路について、安全性、利便性の高い係留施設の整備を行い、漁村地域での生活基盤の改善を図る。</p> <p>また、漁船の航行に支障が生じているため、漁港内への漂砂を防止する防砂堤を整備し、適正な航路、泊地を確保し、安全安心な漁業活動を支援する。</p>		係留施設（浮棧橋） 1基（L=40m） 緑地 1式 防砂堤 1基（L=28m） 泊地浚渫 1式 （事業費内訳；国60%、県30%、市10%）			
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性	<p>当漁港と姫路港間の定期旅客船は、離島である家島と本土を結ぶ唯一の交通機関であるが、現在運航している2社のうち、1社は浮棧橋の老朽化が激しく、もう1社は固定棧橋のため潮の干満による高低差が生じ、乗降時の安全性を欠いている状況にある。このため、安全性、快適性に優れた浮棧橋を新たに整備する必要がある。</p>				
(2) 有効性・効率性	<p>到着時間減少便益…小型船は潮の干満への対応が難しく固定棧橋では乗降ができないため、老朽化等により浮棧橋が使用できなくなった場合は、乗船者は他港の乗船所（家島港）への移動が必要となる。そのため、今回、浮棧橋を整備することにより他港への移動時間が不要となり、到着時間が減少される。</p> <p>作業時間減少便益…バリアフリーに対応した係留施設を整備することにより、安全性、利便性が向上し乗降時の補助者の作業時間が減少される。</p> <p>漁船耐用年数延長便益…防砂堤を整備することにより、漁船の海底への接触等が軽減され、漁船の耐用年数が延長される。</p> <p>費用便益比 B/C = 4.21</p>				
(3) 環境適合性	<p>既存岸壁を利用し前面に浮棧橋を設置することにより、現地形への形状をほとんど変更することなく、海水の出入りにも支障がないことから、周辺環境に与える影響はほとんどない。</p> <p>また、防砂堤には、自然石を使用し、藻場を創出する。</p>				
(4) 優先性	<p>高齢化が急速に進み、地元住民等から唯一の公共交通である定期旅客船での移動の利便性、安全性の向上が強く望まれており、新たな係留施設の整備を行い、漁村地域の生活基盤の改善を図る必要がある。</p>				

イエシマ

# 家島地区 漁港漁場機能高度化事業

バリアフリーに対応した旅客船係留施設の整備

活発な漁業活動を支援する防砂堤の整備

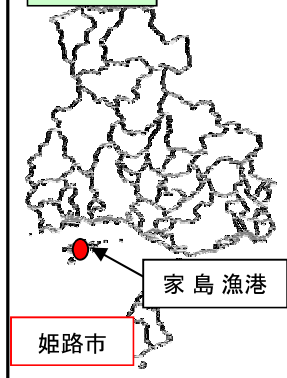
漁港名: 家島漁港(第2種)  
所在地: 兵庫県姫路市家島  
利用漁船隻数: 491隻  
陸揚金額: 880百万円

## 目的

家島と姫路港間の定期旅客船は、離島である家島と本土を結ぶ唯一の交通機関として重要な役割を担っており、現在は2社により運航されているが、2社が別々の場所で運航しており、その内1社は固定棧橋を利用しており、また、別の1社は浮棧橋を利用しているが老朽化が激しいことから利用者に大変な不便をかけている。そのため、2社を同一の場所でバリアフリーに対応した係留施設を整備し、住民、観光客の利便性を向上させる。

また、沿岸流による漂砂等により、漁港内の航路、泊地に流入・堆積し、漁船の航行等に支障が生じていることから、防砂堤を整備し、泊地等の埋没を防止する。

## 位置図



(A) 固定棧橋(高速いえしま(株))



(B) 浮棧橋(高福ライナー(有))

事業主体: 兵庫県  
総事業費: 298百万円  
事業期間: H21~H23

## 主な事業内容

浮棧橋 L=40m  
防砂堤 L=28m  
環境整備施設(緑地)1式

	人口(人)	備考
家島	4,636	内70才以上
その他(坊勢島等)	3,190	1,129人
計	7,826	

## 【運航状況】

運航会社	航路	便数	乗客数※1	備考
高速いえしま(株)	姫路港~家島港、家島漁港	5便/日	24千人	中型船※2
(有)高福ライナー	姫路港~家島港、家島漁港	9便/日	22千人	小型船※3

※1 平成19年度実績より、本島~家島漁港間の全乗客数(4月~12月)

※2 200人乗、バリアフリー対応座席(10席)含む

※3 82人乗 バリアフリー対応座席(4席)含む

工程表（家島漁港）

	H21	H22	H23		
基本設計	■				
係留施設		■	■		
防砂堤		■			
泊地浚渫			■		
緑地			■		

B/C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
漁港 漁村	①到着時間減少便益 ○目的地までにかかる時間などが短くなることによる便益	整備無しの場合の時間経費－整備有りの場合の時間経費 時間経費：Σ(所要時間×利用者数)×労務単価原単位
	②作業時間減少便益 ○乗降時の補助者の作業が不要となることによる便益	整備無しの場合の補助者労務経費－整備有りの場合の補助者労務経費 事故損失額：Σ(所要時間×乗降船回数)×労務単価原単位
	③漁船耐用年数延長便益 ○海底への接触等が軽減され、漁船の耐用年数が延長されることによる便益	整備無しの場合の漁船償却費用－整備有りの場合の漁船償却費用 償却費用：Σ((建造費/整備前の耐用年数)－(建造費/整備後の耐用年数))

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
漁港 漁村	家島漁港	①到着時間減少便益	948	到着時間 57分→35分	276	272	4	4.2
		②作業時間減少便益	34	作業時間 5分→0分				
		③漁船耐用年数延長便益	178	耐用年数 9.0年 →12.13年				
		計	1,160					

算定に用いた資料：水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン（水産庁 平成14年発行）